

概要

- 従来の2端子PVK/Siタンデム設計では、Siとの電流整合のためにペロブスカイト(PVK)のバンドギャップ(Eg)は1.7eV以上であることが望ましいが、現状では、単セルとして低Voc損失で高効率なPVKセルのバンドギャップは1.6eV以下と狭く、さらなる高効率化に必要な電流整合設計が難しい(右図)。
- このギャップを除去するために、トップ/ボトムセルを複数(nセルと mセル)に分割して直列接続した2端子直列PVK/Siタンデム太陽電池の



設計の有効性について数値評価した。この設計では、m/nを最適化することで、任意のEgのPVKセルで電流整合を実現できる。

From Juan-Pablo Correa-Baena et al., *Promises and challenges of perovskite solar cells*, Science 358, 739-744(2017). DOI:10.1126/science.aam6323. Reprinted with permission from AAAS.







参考文献

 K. Kamide and H. Takato, "A Current Matching Design and Its Impact of High-Efficiency Two-Terminal Perovskite/Silicon Tandem Photovoltaics," in *IEEE Journal of Photovoltaics*, vol. 13, no. 5, pp. 699-704, Sept. 2023, doi: 10.1109/JPHOTOV.2023.3284588.



技術的課題:中間導電層の最適化、および、トップPVK 層の均一な成膜プロセスの開発が必要。

2. K. Kamide and H. Takato, "A Current-Matching Approach and its Effectiveness for the Development of Highly Efficient Perovskite/Silicon Tandems," presented in EUPVSEC 2023 (Lisbon)

射辞	この成果は、NEDOプロジェクトの委託業務
	(JPN20015)の結果得られたものです。

上出 健仁、高遠 秀尚 産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター



